



# すずめ踊りのはなし

傳播八幡井組雀踊り保存会 北田 一浩

青葉区八幡町に石切町（現八幡 2 丁目）がありました。泉州堺方面から、青葉城築城の折、石垣を組み立てるために移住した石工さんたちの町です。

今でも数件石屋さんがあります。その中の 1 軒、黒田石材店の 16 代目、故黒田虎雄さんが、石工さんたちが踊っていた「はねこ踊り」を継承されました。石切町の瀬田谷不動尊にこの踊りを奉納されていたようです。踊りの姿が、スズメがえさをついばむときの様子に似ているとして、すずめ踊りと称されるようになりました。いつしか、この踊りは石工さんたちが青葉城の石垣が完成した時に政宗公の御前で踊ったのが始まりだといわれるようになりました。

八幡町にある仙台一中の第 4 代 真山泰校長も地元のこの踊りに注目し、黒田さんたちの指導の下、生徒たち用に独自の雀踊りをつくり、今も継承しています。伊達家ゆかりの青葉まつりも、まつりを盛り上げるためにこのはねこ踊りをアレンジし、多くの人々にアピールしてきました。今では仙台雀踊り連盟も設立され、100以上の祭連（まつら）が加入しています。それぞれが独自の踊りを創造し、楽しんでいます。読者の皆さんの周りでも、雀踊りはごく身近な仙台の新しい名物として定着していると思います。

一方、平成 9 年仙台一中 50 周年記念のパーティーの席上で、故黒田虎雄さんが地元のわれわれにこう漏らしました。「もう 1 度お八幡さん（大崎八幡宮）で昔のままの踊りで踊りて一なー」。居合わせた有志数名が虎雄さんといっしょに八幡宮小野目宮司のもとに伺い、数回の話し合いののち「地元八幡町、石切町で黒田虎雄さんが継承してきたそのままのお囃子、踊りを保存、継承し、八幡宮に奉納する雀踊りの会を創設しよう」ということになりました。

平成 10 年、黒田家の屋号「井」を掲げ、傳播八

幡井組雀踊り保存会が発足しました。

井組の踊りは派手さとは無縁。一見地味で単純な踊りです。ですが、踊り手にしてみるととてもきつい踊りでもあります。

井組の踊り、お囃子の特徴。

1：笛は篠笛で 7 孔（押さえる穴が 7 個）。

ふつつは 6 孔。

2：太鼓は平太鼓

3：バチは ネズミモチ（タマツバキ）の枝。

4：カネは使わない。

5：演奏は笛から始まる。

6：扇子は 1 本。

7：踊りの基本は中腰（これがつらい）。片足ずつはねる。両手は基本的に横 8 の字。など。

太鼓は担いで使用はしないので、行進しながらの踊りはできません。

というわけですので、わたくしたち井組は青葉まつりや七夕祭りには参加していません。

井組の 1 年は大崎八幡宮での正月奉納演舞に始まり、八幡小学校の体育祭りでの生徒たちとの演舞、大崎八幡宮例大祭での演舞、八幡町のどんとロード八幡雀踊りの運営手伝いなど、あくまで地域に密着した活動をしています。

地道な活動は、他の雀踊りの祭連からも、雀踊りのいわゆる原型として認められつつあります。

すずめ踊りの原型は、国宝大崎八幡宮のおひざ元、八幡町にあるのですよ。

